

1971年8月7日 第3種郵便物認可(毎月1・6の日発行)

2021年8月11日発行 SSKA 頸損 通巻10584号

SSKA 頸

損

KEISON No. 134

目 次

特集 全国総会・京都大会

京都大会を終えて	1
2021年度 全国頸髄損傷者連絡会 総会報告	2
2021年度 活動方針提起	
2020年度 収支報告&2021年度 予算案	
共生社会実現に向けて	8
事務局からのお知らせ&書籍紹介	9
頸損解体新書 2020 発刊にあたって	10
各支部からのリモート交流会報告	12
DPI 全国総会・全国集会報告	15
慢性期頸損者の健康	16
人工呼吸器からの一時的な離脱を可能に	18
重度障害者の就労支援策	20
当事者が考えた防災避難計画から見えた課題	22
九州支部活動紹介	24
「障害当事者こそが変える！人手不足の介護現場」参加報告	26
お役立ち！？	27
報道・情報ピックアップ	28
全国頸損連絡会&関係団体 “年間予定”	30
全国頸髄損傷者連絡会連絡先	31

京都大会を終えて

京都での全国総会開催は11年ぶりでした。

偶然にも全国脊髄損傷者連合会の全国総会も京都で同時期の開催であったため、大濱代表理事より共同開催のご提案をいただき、両団体役員での検討を踏まえて開催する運びとなりました。

全国脊髄損傷者連合会と全国頸髄損傷者連絡会の開催へのプロセスには、団体個別の事情もあって両団体で開催準備をするにあたり、戸惑うことが多くありました。

昨年に引き続き、全国総会は新型コロナ感染の収束を願いながらの開催となり、両団体で参加予定が350名程度見込まれ大規模であることから、大会そのものが集まっての開催が出来るのかということが懸念されたことや京都での大会に多くの方が参加いただけるようwebで同時配信をすることを決めて準備を始めました。

準備を始めてまず戸惑ったのは、私達の支部では役員などで手分けして会場設営や宿泊手配をしますが、全国脊髄損傷者連合会では多くの役割を業者に委託しておられることでした。

宿泊、会場など、近畿日本ツーリスト、ユニバーサルツアーの担当者とZoomを含めたミーティングを持って、ホテル内進入経路の確認と検討、費用見積もり、宿泊申し込みシステムなど今まで経験したことがない大会準備がありました。

これは確かに便利ではあるのですが、当事者運動団体としては次世代リーダーを育成する機会にもなる取り組みとしていたので当初躊躇いました。

このように準備から団体としての取り組み方への違いはありましたが、京都に拠点を置く両団体の支部間での大会実行委員会を立ち上げて、お互いの団体にあった違和感を率直に意見交換することを心がけて、当初は2ヶ月ごと、開催1年前からは毎月開

催し、これまでの活動の違いを認め合い、これからの協働につながる、共同開催にかかる大会趣旨、頸損解体新書報告会、両団体の交流企画、再生医療、介護報酬改訂研修など、脊髄と頸髄に障害をもつ両団体が、今後も一緒に活動するための相互理解を深める企画をつくることが出来ました。

実行委員会以外では、全国脊髄損傷者連合会京都府山本英嗣支部長と、京都府、京都市など大会への後援、協力を求めて大会趣旨をお話するため訪問等行いました。

脊髄損傷と頸髄損傷と同じ脊髄に損傷をもつ者どうしではありますが、新型コロナウイルス感染への危機感では認識に違いがあり、大会2週間前に最終的な開催形態をオンライン開催のみと決めることとなったのは両団体が今後一緒に活動する上での課題として残ったと感じています。

会員、本部役員、事務局のみなさんに大変ご迷惑をおかけしました。

全国総会として100%のものであったかは分かりませんが、全国脊髄損傷者連合会と全国頸髄損傷者連絡会、両団体で開催された、この京都大会が今後の障害者運動への提起になればという、大会準備にあたった京都支部メンバーの思いをご理解いただければと思います。

最後になりましたが京都大会を開催するにあたり、京都支部の主体性を重視して開催サポートいただいた本部役員、事務局のみなさまにあらためて感謝申し上げます。

ありがとうございました。

2021年度 全国頸髄損傷者連絡会 総会報告

事務局長 宮野 秀樹

全国頸髄損傷者連絡会・2021年度全国総会を2021年6月6日（日）にオンラインで開催しましたことをご報告いたします。

年次総会は、2021年6月5日・6日と行われた全国頸髄損傷者連絡会総会・京都大会の2日目に開催しました。今回の京都大会は、初の試みとして全国脊髄損傷者連合会との共同開催となりました。団体の相互理解を深めることや共通する問題の解決に向けた協働を目的とした共同開催でしたが、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症拡大による緊急事態宣言が京都府に発出されていたため、大会のプログラム全てをオンラインで実施しました。

両団体の京都支部が中心となって実行委員会を組織し運営にあたってもらいましたが、大きなトラブルもなく全プログラムが終えられたことに、あらためて深謝いたします。当会は、共同企画の中で全国脊髄損傷者連合会に協力いただき実施した「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査2020」をまとめた「頸損解体新書2020」の完成報告を行いました。頸髄損傷者を含む脊髄損傷者の残された課題の報告、それを改善するための提言を行いました。これらから協働して問題の解決ができそうな期待も持つことができました。

年次総会は、会員の皆様にご協力いただき、総会成立のための定足数を満たすことができ、無事に開催することができました。総会自体は、下記の議事において承認を得ることができました。

- ・2020年度 年間活動報告
- ・2020年度 収支報告・監査報告
- ・頸損者を取り巻く現状と課題
- ・2021年度 本部役員・事務局体制案
- ・2021年度 活動方針提起
- ・2021年度 予算案

昨年度は、代表者のみ出席の総会でしたが、今回は会員もご参加いただく形で開催できました。全国各地から会員が参加されている様子をモニターで見ると、オンライン開催のメリットを強く感じました。

総会では会員からいくつか要望をいただきました。医療において、受傷して、急性期や回復期から維持期の長期に及ぶ医療と訓練を一貫して提供する体制づくりの必要性と、全国組織としてこの問題に取り組むべき。雇用・就労において、重度障害者の就労中の介助の必要性と現行の制度にこのサービスを組み込むことを全国組織として取り組むべき。この2点に対し強く要望をいただきました。全国頸髄損傷者連絡会として、いただいた要望の早期実現に向け、政府や関連省庁および関連機関に対して働きかけたいと考えております。

収支報告では、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大にともなう外出や会合の自粛を求められた影響により、支出が抑えられる結果となりました。それを受けて予算案では、コロナ禍を想定しての縮小した予算としてもよかったのですが、新型コロナウイルス感染症が収束したと同時にすぐにでもセルフヘルプを行えるよう、通常の活動を想定した予算内容にしています。

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めることになることが予測されます。多くの頸髄損傷者が集まる会合の開催は難しいかもしれませんが、オンラインを活用したイベントや交流会も開催されるようになっていきます。外出自粛の影響で体力低下を感じている会員も多いと思います。それにとまない精神的な不安も生じているのではないのでしょうか。当会および各支部ではオンラインイベントを多数開催しておりますので、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

2021年度 活動方針提起

■活動の基本的な考え方

自分らしくあるために「Take Action(行動を起こす)」しよう!

どんなに重い障害があっても自律して生きられる社会を求めて、私たちはいつの時代も“Take Action (行動を起こす)”してきた。

「障害者権利条約(以下、条約)」が批准され、障害は個人にあるのではなく、その個人の行動を妨げる社会にあるという考え(社会モデル)をもとに国内法が整備されてきた。私たち抜きに私たちのことを決めさせないという共通の思いの下、障害の枠を超え連帯して声を届けてきたことにより、それが政策反映に結びついている。

我々は、頸髄損傷者の生活困難原因を究明すると共に、条約の理念が権利を侵害することなく各国内法に反映されているか、他団体と協力して注視していかなければならない。そして、個々の頸髄損傷者が直面する問題の解決を目指してセルフヘルプ活動を行っていく必要がある。

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(通称：障害者差別解消法)」が2016年に施行され、今年度には同法改正案が審議される。障害者権利条約が求める人権が守られる社会であるためにも、障害者差別解消法の差別の定義の明確化や、民間事業者の合理的配慮の提供の義務化等、積み残された様々な問題を解決しなければならない。そしてこれらの問題は、建設的対話による相互理解を経て解決することが重要であり、その延長上に共生社会の実現があると考えている。障害者基本法他、関連法改正の動きも同様に監視し、障害者権利条約の規定を法律に盛り込ませるように、法改正に向けた活動を積極的に行われなければならない。

医療では、新しい再生医療の技術が日本で実用化され話題となっている。頸髄損傷者に希望をもたらすことは歓迎するが、過剰な期待を持つことなく冷静に対応したい。頸髄損傷者に必要なリハビリテーションが提供できない医療点数制度となって以降、適切なリハビリサービスを提供できる病院・施設が減っている。医療・福祉分野において「必要なサービスを、必要な人が、必要な時に」提供されるよう、関係機関に働きかけなければならない。

2020年初頭に日本で新型コロナウイルス感染症が確認されてから、未だに多くの者が感染・発症し、現在でも終息の目途がつかない。頸髄損傷者は、呼吸を司る神経を損傷したことによる肺活量の低下等の呼吸器疾患を持つ者が多いため、新型コロナウイルス感染症が重症化する危険性が高い。早急なワクチン接種の実施、入院時の対応策への検討を求め、感染予防に関する情報提供を行う必要がある。

社会の一員としてあたりまえに生きること、主体性が認められた社会人として生きられる社会にすることが我々の目指すところである。簡単に実現することではなく、すぐに成果を目にすることはできないが、諦めず、Take Action を継続しなくてはならない。「自分らしくあるために」、自らが仲間と共に、さらに一歩踏み出さなければならない。

■基本活動

ひとり一人が行動しよう！

頸損者が尊厳を奪われることなく、真にひとり人間として心豊かに生きるためには、自己信頼の回復が必要になる。それは困難を乗り越え、多くの成功・感動を体験することで取り戻すことができる。

当会には逆境をはねのけ、人生を取り戻した経験者や、幾多の失敗を糧に、次こそは上手くやると困難に挑む挑戦者が数多くいる。必要とする情報を提供して人生を取り戻す一助となるのが当会の最大の目標であり、孤独になりがちな頸損者のためにひとり一人が行動するセルフヘルプ活動を行っている。

頸髄損傷者連絡会は当事者団体ではあるが、情報の提供は会員、非会員を問わず提供することを会活動のひとつとしている。今年度も以下の項目を活動の柱として運動を続ける。

- 頸損者へのセルフヘルプ、ピアサポートを積極的に実践
 - ・各支部間の交流、支部のない地域での出張活動・招待活動等
- 頸損者の抱える問題を共有化し、問題解決の道を具体的に探す
 - ・代表者会議、支部間交流、頸損同士の交流によって問題の共有化を図る
- 情報を収集し、頸損者及び関係機関等への情報提供をより充実させる
 - ・機関誌・HPの内容充実、講演活動の充実
- 障害の枠を超えた各分野との交流・活動
 - ・障害者団体、公的機関、学会、教育機関、分野別メーカーとの交流や関連会合への出席
- 他団体との統一行動
 - ・介助、交通・まちづくり、制度改革などの課題を協力して行政への要請行動を行う

■活動重点目標

- ☆生活を向上させるための法律・制度・サービス改善交渉を行う
- ☆当事者の視点による意見を的確に伝えられる人材の育成を目指す
- ☆障害者支援を目的とする機関とのネットワークを拡げる

■分野別活動方針

●障害者の権利保障

- ◎障害者権利条約の完全実施を目指し、国連障害者権利委員会による日本政府との建設的対話において、有効で拘束力のある勧告を引き出せるよう、JDF パラレルレポート特別委員会と協働して進めていく。
- ◎障害者差別解消法改正後の課題である、法の対象や差別類型、ワンストップ窓口を設置するといった相談体制の充実などについて整理し、提言していく。

●介助制度

- ◎インクルーシブ社会の実現に向けて、介助制度の拡充を求めていく。
- ◎新型コロナウイルス感染症の感染拡大により介護現場が体制崩壊を起こさないために、介助制度の柔軟な運用や、医療と福祉の連携を求めていく。

●交通・まちづくり

- ◎生活の中で障壁となる事例を集め、他団体とも協力して、国に声を届け、解決策を求めていく。
- ◎各種会議、研修等に、積極的に参画し、当事者の声を届けること。
- ◎学習会開催などを通して、アドバイザー、講師として活躍できる人材の育成を行う。

●福祉用具（補装具・日常生活用具）

- ◎自立生活に必要な機器が、適確、迅速、安価に入手できるよう求める。
- ◎福祉用具の適切な選択、使用方法を指導助言できるネットワークの構築。
- ◎ICT機器を活用し、必要な福祉用具情報提供体制を準備する。
- ◎自立生活に必要な機器にかかる自己負担の地域格差解消に向けて準備する。

●医療関係

- ◎急性期や回復期から維持期の長期に及ぶ医療と訓練を一貫して提供する専門センターの充実を求める。
- ◎高齢者の受傷と高齢化によって高齢頸損者が増加しているため、地域医療やクリニックにも専門的な認識の充実を求める。
- ◎高位頸髄損傷者に対する在宅医療支援制度および体制の充実化を求める。
- ◎喀痰吸引等研修カリキュラムの充実と登録費用の無償化を求める。

●住宅環境

- ◎住宅整備・改修助成制度の改善を求める（助成費用を適正額にする）。
- ◎住宅問題解決のために各専門家と情報共有ができる講習会・勉強会を開催する。
- ◎各市町村で補助制度を認めた事例の情報提供を行う。

●所得保障・就労

- ◎安心して自立生活を送れるだけの障害年金、生活保護の支給額のアップを求める。
- ◎「在宅就労」という働き方の普及と定着、就労している頸損者の給与アップを求める。
- ◎日常生活動作の確立と職業訓練が専門的に行えるリハビリテーションセンターを各地域につくり、社会復帰（復職や就職）出来るまでの一連のプログラムを求める。
- ◎学校教育の中に若い頸損者が復学や進学して就職できるまでの「一貫した支援体制」の確立を求める。
- ◎苦情相談、紛争解決調停システムの整備を求める。

●女性の権利

- ◎定期的な学習会・交流会の開催を行う。
- ◎女性頸損リーダーの育成を行う。
- ◎ジェンダーバランスの改善を求める。

令和2年度 全国頸髓損傷者連絡会 収支計算書

令和2年4月1日～令和3年3月31日

収入の部

科目	金額
前期繰越金	1,529,279
本部会費	45,500
本部運営分担金	534,000
寄付金等収入	1,049,066
機関紙等売上代金	1,838
受取利息	9
合計	3,159,692

支出の部

科目	金額
団体加盟費	94,151
事務所使用料	180,000
事務諸経費	17,785
通信・発送費	129,806
機関紙等印刷・編集費	494,821
会議費	70,942
雑費	26,661
次期繰越金	2,145,526
合計	3,159,692

上記のとおり報告します。

令和3年4月12日

会計

山本格生



令和2年度の会計について監査を執行し
収支は適正であり会計報告は正しく表示されていることを認めます。

令和3年4月12日

会計監査

三好 宏和



2021 年度 全国頸髓損傷者連絡会 予算(案)			
(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)			
収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前期繰越	2,145,526	団体加盟費	85,000
本部会費	50,000	事務所使用料	180,000
本部運営分担金	630,000	事務諸経費	45,000
寄付金等収入	650,000	通信・発送費	200,000
		機関誌等印刷・編集費	500,000
		会議費	160,000
		旅費交通費	400,000
		予備費	50,000
		次期繰越	1,855,526
	3,475,526		3,475,526

※オンラインでの活動を想定した予算案では、万が一新型コロナウイルス感染症が収束した場合、補正予算が必要となるため、通常の活動（対面式での活動）を想定した予算案として作成しています。

2021 年度 本部役員・事務局体制

■本部役員

会 長 鴨治 慎吾（東京）
 副 会 長 八幡 孝雄（東京）
 村田 恵子（京都）
 山本 格生（岐阜 次期総会開催）
 事務局長 宮野 秀樹（兵庫）
 編 集 長 八幡 孝雄（東京）（兼任）
 会 計 山本 格生（岐阜）
 会計監査 三好 宏和（愛知）
 相 談 役 今西 正義（東京）
 三戸呂 克美（兵庫）
 坂上 正司（兵庫）

■事務局員

事務局長補佐 鈴木 太（愛媛）
 事務局員 青山 和幸（岐阜・ホームページ担当）
 篠田 義人（岐阜・会計補佐&ML 管理担当）
 島本 義信（大阪）
 井谷 重人（愛媛）
 毛利 公一（香川）

共生社会実現に向けて

～ 合同シンポジウムお疲れ様でした ～

公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会
事務局長 安藤信哉

全国頸髄損傷者連絡会の皆さん、先日の6月5日に開催された合同シンポジウムでは大変お世話になりました。新型コロナウイルスの影響で本来ならば京都グランビアで開催する予定でしたが、残念ながらウェビナー形式によるシンポジウムとなってしまいました。しかしながら、全国頸髄損傷者連絡会の皆さんの「頸損解体新書2020」の発表は本当に素晴らしいものでした。

とりわけ、頸損解体新書2020の158ページにおける重度頸髄損傷者の現状と課題においては、重度障害者の就労の問題などがクローズアップされていて、重度障害者である私としては大変興味深いものでした。特に就労に関して、重度な障害を伴わない一般的な障害者の場合は5割程度の就労状況に対して、重度な障害者になると3割程度まで低下してしまうことが定量的に把握できて大変有意義な調査になっていると思いました。

まだまだ重度な障害者の場合は、社会参加や就労参加の割合も低く、全国脊髄損傷者連合会が目指している「共生社会の実現」に向けては課題が残っていると改めて実感したシンポジウムとなりました。この頸損解体新書2020の作成及びシンポジウムの発表に携わった鴨治会長、宮野事務局長を始めとする全国頸髄損傷者連絡会のスタッフの皆様、本当にお疲れ様でした。

ただいま、全国脊髄損傷者連合会も脊髄損傷の実態調査をするべく、NPO法人日本せきずい基金のみなさん及び徳島赤十字ひのみね総合医療センターの加藤真介先生と一緒にアンケート調査の書類作成及び発送の準備に取り掛かっています。こちらは頸髄損傷だけではなくて脊髄損傷の皆さんの生活全般的な実態調査にしていく予定です。全国頸髄損傷者連絡会の会員の皆様にもぜひともご協力いただきたいと考えております。その節はご協力の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、全国脊髄損傷者連合会では10年後に向けて2030ビジョンを作成しました。2030ビジョンでは以下のような目標を立てて活動を始めています。

- 一、どのような重度の障害者でも地域社会で安心して暮らせる制度の確立を
- 一、障害のある人もない人も共に平等に暮らせるインクルーシブ社会の実現を

この目標に関しては、全国頸髄損傷者連絡会の皆さんとも ご協力いただけるのではないかと考えております。当会の代表理事でもある大濱は頸髄3番4番の損傷で、私は4番5番損傷です。どちらも完全麻痺の重度な障害を抱えております。組織は違えど、志は同じではないかと思っております。是非とも共生社会の実現に向けて共に歩いていきたいと考えています。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。



事務局からのお知らせ

全国頸髄損傷者連絡会事務局

○お知らせ（訃報）

2021年7月30日（金）、岐阜支部の山本格生会長がご逝去されました。山本会長には、本部の会計担当役員としても会の運営にご尽力いただきました。故人の功績を讃え、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

山本会長の訃報を受け、本部会計担当役員の後任選定を検討しましたが、来年度の総会までは岐阜支部の篠田義人氏（前・会計担当役員）に業務の代行をお願いし、事務局もサポートする形で会計業務を進めることにしました。また、次年度総会は岐阜大会として開催する予定でしたが、秋の全国代表者会議（2021年9月5日オンライン開催）にて再検討いたします。本誌で行った総会報告とは異なる役員体制ならびに事業計画になりますが、どうかご了承くださいますようお願い申し上げます。

○全国脊髄損傷者連合会「脊髄損傷者の生活実態調査」へのご協力のお願い

全国脊髄損傷者連合会より「脊髄損傷者の生活実態調査」と題して実施されるアンケート調査への協力を依頼されました。昨年当会でも実態調査を実施しました。しかし、医療、ケア、生活の改善をするためには、できるかぎり多くのデータを集積して、その結果を世に問い、頸髄・脊髄損傷者の実態を広く伝える必要があります。会員の皆様には、調査の主旨をご理解のうえ、ぜひともご回答をお願いいたします。



書籍紹介

『わたしが人間であるために
——障害者の公民権運動を闘った「私たち」の物語』
ジュディス・ヒューマン
クリステン・ジョイナー著 曾田夏記訳
発行 現代書館

【紙版】定価 2500 円＋税
発売予定：7月26日（月）頃より全国書店、Amazon、紀伊
国屋書店ほかウェブサイトにて *テキストデータ請求権つき
【電子版】定価 2200 円＋税
発売予定：7月26日（月） Amazon、紀伊国屋書店ほか電
子書籍販売サイトにて

内容：

1964年の公民権法から取り残され、「二級市民」でもなかった米国の障害者たち。そこに風穴を開けた「リハビリテーション法504条項」誕生の背景に、当事者たちの粘り強い運動があった。リーダーとして政府機関に乗り込み、25日間占拠したジュディス・ヒューマン。障害を理由に学校や就労から排除され、それでも「人間であるために」闘ったジュディが、今日もなお差別と闘い続ける「私たち」へ贈るライフストーリー（監訳：中西由起子 解説：尾上浩二）。

頸損解体新書 2020 発刊にあたって

会長 鴨治 慎吾

2018年の全国総会・大阪大会を終えて、全国頸損の会長となって数か月後、同じく事務局長となった宮野さんから「頸損解体新書 2020 をやらなければ…」と連絡があった。私の中でも考えてはいたが、実際にはあまり動けていなかった。その後、頸損連絡会や何人かの研究者や関係者の協力を得て、2018年10月下旬に「頸損解体新書 2020」準備会（キックオフミーティング）を進めることができたのである。

準備会では、実際の頸損解体新書 2020 実行委員会を立ち上げるために、どのような組織で進めるかが話し合われた。まず、過去の頸損解体新書作成資料を掘り起こすことから始まり、今回の内容の検討、今後のスケジュール等の作成、助成金の選定及び申請と皆さん忙しい中調整していただき、進められていった。そのおかげもあり、三菱財団社会福祉事業・研究助成金を受けることができた。限られた財源の中で運営している当会にとっては、頸損解体新書 2020 作成に掛かる資金面での不安は解消された。

全体会議や分野別、個々の話合いも含めると全部で 100 を超える会議を開いたと思う。また、2020年初頭から流行り始めたコロナ感染症のため、Zoom を用いた会議が中心となっていった。最初の頃は、不慣れなため映像が映らない、音声が届かない、などいろいろとトラブルがあったが、経験を積み重ねた甲斐もあり、現在では何とか Web での報告会などを行えるようになった。

内容については現代に合った設問（アンケート）にしようということで、かなりの時間を使い検討された。最初は皆で考え設問を出し合ったが、あまりにも膨大な数になってしまい、これではアンケート回答者の負担も多くまた、返答率も下がってしまうため、設問の量をできるだけ簡素なものにしようという工夫をした。

それでも、なかなか調整することが難しく、何度も話し合いをすることがあったが、実行委員の皆様

のご協力のおかげで、頸髓損傷者の自立生活と社会参加の現状とその障壁を明らかにすることができた。そして、自立生活と社会参加を促進する上で必要な社会的支援のあり方を検討することを目的とするための「頸損解体新書 2020」をまとめ上げた。

調査内容に関しても、過去 2 回の調査ではあまりふれていなかった女性頸損、ライフスタイル（家族・結婚・性）、災害についても、調査項目として増やすこととした。また今回、頸損解体新書 2020 の実態調査としてできなかった案件に関しては、改めて調査を行うということとなった。

アンケートは頸損連絡会を中心に、全国北海道から沖縄まで、頸髓損傷者の関わる各団体の協力を依頼し、合計 3,055 通発送。WEB 回答 250 名、郵送回答 312 名、総回答数 512 であった。ご協力いただいた皆様にはあらためて感謝いたします。

内容に関しては、やはり今の時代に合った回答が多かったと思われる。一昔前には困難なことや難しかったことが今では容易になってきていたりもするが、いろいろな場面において残された課題もあった。詳しくは頸損解体新書 2020 を見ていただきたい。

勿論自身に関わることのみに興味があると思われるが、同じ障害を持っていても状態や地域などによって様々な生活があり、まだ解消されていない問題があるということも認識してもらいたい。そして、その問題の解決に力を貸していただきたい。一人ひとりが考え、声をあげ、行動することが解決につながると信じている。

2020年9月、中間報告会を Web 開催で行った。翌年6月に発刊し、全国総会・京都大会（Web 開催）で頸損解体新書 2020 報告会を行った。今後も9月にリハ工学カンファレンス（Web 開催）にて、そして10月には最終報告会（Web 開催）を行う予定である。できるだけ多くの方に現状を知ってもらい、この先の頸髓損傷者の未来を共に考えてほしい。

頸損解体新書 2020

～自分らしくあるために～

前回の『頸損解体新書 2010』から10年が経ち、改めて今の頸髄損傷者の自立生活と社会参加の現状とその障壁を明らかにし、必要な社会的支援のあり方を検討するために、一般社団法人日本リハビリテーション工学協会と協働で「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査 2020」(※1)を実施しました。この度、その結果を「頸損解体新書 2020 ～自分らしくあるために～」としてまとめました。



【目次】

- 第1部 みんなちがって、みんないい
 - 1-1 章 希望をカタチに、次へつなぐ(事例紹介)
 - 1-2 章 未来へ
 - 1-3 章 頸髄損傷者損者を取り巻く課題
- 第2部 頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査報告
 - 2-1 章 全国頸髄損傷者実態調査の方法
 - 2-2 章 地域格差
 - 2-3 章 高齢障害者
 - 2-4 章 外出の壁
 - 2-5 章 女性頸損者が抱える課題
 - 2-6 章 就労
 - 2-7 章 福祉用具/機器・ICT・バリアフリー
 - 2-8 章 住環境
 - 2-9 章 災害
 - 2-10 章 健康
 - 2-11 章 ライフスタイル
 - 2-12 章 制度・サービス
 - 2-13 章 重度頸髄損傷者の現状と課題
 - 2-14 章 在宅以外で生活する頸髄損傷者
- 第3部 頸髄損傷者の自立生活と社会参加の促進に向けた提言
 - 3-1 章 頸髄損傷者を取り巻く社会状況
 - 3-2 章 頸髄損傷者に残された社会的条件整備の課題
 - 3-3 章 誰もが自立できる社会を目指して
- 第4部 資料編

(A4版 全209ページ)

現在この「頸損解体新書 2020」は両団体会員向けに配布をしており、一般の方への頒布は次年度以降を予定しています。早期にご希望される方は、全国頸髄損傷者連絡会本部までお問い合わせください。

また、10月に本実態調査の最終報告会をオンラインにて開催予定です。詳細が決まり次第、下記ホームページにてご案内します。リハ工学カンファレンス(9/25-26)でも発表と報告を予定しています。

【問い合わせ・連絡先】 全国頸髄損傷者連絡会本部

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1 フローラ 88 305B
 特定非営利活動法人ぼしぶる内

メール: jaqoffice7@gmail.com TEL: 079-555-6022 (10時～17時)

URL: <https://k-son.net/research2020/>



※1 本調査は公益財団法人三菱財団「2019年度社会福祉事業・研究助成」の助成を受けて実施しました。

各支部からのリモート交流会報告

各支部で行われたリモート交流会の様子を報告します。

○兵庫・岐阜支部交流会 報告者：米田進一（兵庫支部）

5月16日（日）、頸損連絡会・岐阜支部の皆様とリモート交流会をしました。初めてのリモート交流会という事で、スケジュールや参加者募集に時間を掛け、話し合いたい内容や近況報告、雑談を含め二時間半近くになりました。当初の予定は一時間半を予定しておりましたが、思ったより盛り上がりました。

初めての試みでしたが、大変盛況になったと思います。



兵庫・岐阜支部交流会に参加されたメンバー

○兵庫・神奈川支部交流会 報告者：米田進一（兵庫支部）

6月19日（土）に、神奈川・東京頸髄損傷者連絡会の皆様と交流会を行いました。久しぶりにお会いする方や初めてお会いする方もおられ、この日も話が尽きる事なく雑談を含め二時間半近く盛り上がりました。コロナ禍で普段話せない事で、一時を共に過ごせ気分転換になったのであれば嬉しく思います。



兵庫・神奈川支部交流会に参加されたメンバー

○東京頸髄損傷者連絡会オンライン交流会 報告者：関根彩香（東京支部）

2021年7月24日（土）に記念すべき東京頸損第1回となるオンライン交流会を開催いたしました。参加者は計8名と少数ではありましたが、その分濃い交流ができたと思います。例年のイベントには参加できていなかったが、オンラインだから参加しようと思ったと初めて活動に参加して下さった方がいたことはとても嬉しかったです。

コロナ禍となり私たちの生活も一変してしまいましたが、久しぶりにオンラインですが再会できて楽しい時間を過ごすことができました。話題は、コロナ禍の生活、ワクチン接種の状況、体温調節の方法、褥瘡の悩みなど多岐にわたりました。情報交換・共有することで良い情報を得られたり、選択肢が増えるってやはり良いですね！

距離を越えられるオンラインの強みを生かして、これから全国の皆さまとコミュニケーションできる機会を増やしていきたいと思っております。各支部の皆さま、お声がけさせていただきますのでその際はどうぞよろしくお願いいたします。

本企画を手伝ってくださった上野さんにこの場をお借りして感謝申し上げます。



東京頸髄損傷者連絡会オンライン交流会に参加されたメンバー

○リモ女会 報告者：竹村美紀子（兵庫支部）

「リモ女会」とは2020年春に開始した女性頸髄損傷者のためのリモート女子会のことです。

現在メンバーは22人、年齢層も幅広く20代から70代までと様々です。リモ女会は1~2か月に1度Zoomを利用し開催しています。私たちの切っても切れない特有の悩みなどについて気持ちを共有し合ったり、皆でそれぞれの工夫や対応の仕方など話し合ったりしています。また、日常生活の中で利用している便利なものやお勧めのものなどを紹介しあったりしています。普段はLINEグループで繋がっており、そこでも皆で、散歩中に見かけた季節の花々の写真をシェアしたり、美味しかったお菓子やスイーツを紹介したりされています。元々は、コロナウイルス蔓延により生じた不安や孤独感を少しでも何とかしたいという思いから始めた会ですが、現在は全国各地に在住の頸損女性仲間と繋がることが出来ていることを嬉しく思っています。今後もストレスフリーで参加してもらえる楽しい会を無理なく続けていけたら嬉しいです。リモ女会に関する問い合わせは事務局までお願いします。

○頸髄損傷者連絡会に入会して 報告者：井上良一（愛媛支部）

頸髄損傷者連絡会愛媛支部です。私は令和3年4月に入会したばかりです。私は頸髄損傷者連絡会という団体があることすら知りませんでした。友人のUさんに招待されて試しに参加してみました。その時にはオンラインミーティングも第3回を迎えており、その後正式に頸髄損傷者連絡会に入会しました。これまでの経緯を聞くと、私たちの支部ではいろいろな企画を立てて親睦を深めていました。それが、コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて対面での企画を実施することができず、これまで行ってきたBBQ、交流会、忘年会、新年会などが開催できなくなりました。対面することが少なくなったり、コミュニケーションを取ることが少なくなったりする中で孤独を感じたり、不安になったりという事象が社会問題になっていたりします。しかしコロナウイルスがもたらしたものは悪いことばかりではなく、IT化を急速に発展させるという結果ももたらしました。そこでこのような状況下の中で「一度オンラインでつながってみようか」ということでZoomを使ってオンラインミーティングを開催してみたいそうです。開催してみたいのほかに会員同士の評判が良かったので第1回目の最後に「月1ペースぐらいでやってみよう」と話し合い、毎月月末の水曜日の19時～20時に開催することが決まりました。

会員の構成は自立生活をしている方、在宅で家族と生活を共にしている方、福祉施設に入所している方など環境が異なる生活スタイルで過ごされており、ミーティングでは会員それぞれの近況報告や活用している福祉用具などの説明や、現在困っていることなどの相談やフリートークなどで情報交換などを行っています。私は会員になって日も浅いですが、この連絡会に参加してみて知らなかったことや役立つ情報などを得ることができて参加してよかったと思っています。

早くコロナウイルスが終息して、以前企画していたような対面での親睦を深められるような日が来ることを心待ちにしています。



愛媛頸髄損傷者連絡会オンライン交流会に参加されたメンバー

○香川のオンラインツール活用状況 報告者：長谷川奨（香川支部）

香川頸髄損傷者連絡会では、年3回対面で開催していた運営会議をZoomで行っています。役員都合に合わせて時間を設定し、事業報告・予定や決算・予算などについて話しています。

今後、会員とのオンライン交流会を目指して取り組んでいるところです。

DPI 全国総会・全国集会報告

京都頸髄損傷者連絡会 村田 恵子

DPI 日本会議の全国総会と全国集会が5月29日(土)・30日(日)にオンライン(Web)にて開催されました。

第1日目は、DPI 日本会議総会として①障害者権利条約の完全実施②地域生活③交通まちづくり④権利擁護⑤教育⑥雇用・労働⑦障害女性⑧国際協力⑨尊厳生⑩優生保護と優生思想⑪欠格条項⑫コロナ禍への対応⑬障害者文化芸術⑭次世代育成の2020年度事業報告および決算報告、2021年度事業計画・方針および予算案等を発表、承認されました。

第2日目は、全国集会として「今こそ国内法の法整備を！障害者権利条約の完全実施に向けて～差別、虐待を無くす！脱施設を進める～」と題して、全体報告では「障害者差別解消法改正の見直し」として内閣府障害者政策委員会でまとめられた意見が反映された法案、民間事業者の合理的配慮の義務化・相談体制の強化が盛り込まれ、今後も差別の定義・ノンストップ相談窓口・障害女性の複合差別等の更なる審議、さらには各省庁の対応要領、対応指針の見直しなど、国会審議情報と今後の取り組みについて報告されました。

特別報告では、「障害者権利委員会脱施設ワーキンググループの取り組み」を国連障害者権利委員会のキム・ミヨン氏より脱施設を推進するガイドラインの策定のための取り組みとして地域別コンサルテーションの実施状況など、権利委員会の動向が報告されました。

(詳細はこちらから)

https://www.dpi-japan.org/blog/workinggroup/advocacy/210530_zentaikai/

また報告では、「虐待防止法の改正に向けて～神出病院の虐待事件から考える～」では、虐待防止法に

ある通報義務の対象に病院や学校、保育所、官公署などが含まれておらず対象拡大へ改正がされない中で起こった神出病院による虐待事件の発生と精神科病院等での虐待防止に向けた取り組みについて報告されました。

午後は二つの分科会が開催され、地域生活・雇用労働合同分科会からは「重度障害者の雇用に必要な通勤及び勤務中の支援制度を考える」と題し、新制度の概要と実施及び利用状況から重度障害者の雇用を確保するための現状と課題の検証、実態に即した制度化へ発展するために必要な課題を厚労省、さいたま市、制度を利用する当事者を迎えて話し合われました。

(詳細はこちらから)

https://www.dpi-japan.org/blog/workinggroup/community/210530_chiikikoyou/

障害女性分科会からは「リプロと障害者—ジェンダー視点から捉える—」と題し、生殖医療に関する法律や着床前診断など、現在の医療における「子をもつ・もたない」ことの在り方の変化とその背景にある優生思想について、リプロダクティブ・ヘルス・ライツやジェンダー視点から障害のある人の性と生殖への問題意識を共有、またコロナ禍での障害女性の生きづらさを、事例を紹介しながら考える機会となりました。

(詳細はこちらから)

https://www.dpi-japan.org/blog/workinggroup/women/210530_josei/

兵庫支部の機関誌に掲載された「特集・ベテラン(慢性期)頸損者の健康」の中から1名の頸損者の事例報告を再編集し転載します。

慢性期頸損者の健康

兵庫支部 吉田 一毅

頸髄損傷者となってから20余年。その年月を、健康という視点から振り返ると、健康管理は生活の中心にあったのだと改めて思います。生活の基盤は健康であり、基盤である健康を良好に保つことができれば、その上に築かれる日々の生活も、より良いものになっていくと思います。

頸髄損傷者にとって、健康管理における最重要課題のひとつである褥瘡予防。50歳を過ぎ、褥瘡予防をはじめ、健康管理は年齢に応じて変えなければいけないと思うようになりました。

頸髄損傷者の加齢対応について褥瘡を中心に述べたいと思います。

○やっぱり褥瘡予防

大病や怪我等なく概ね健康であったとしても、日々の体調が良くなければ、日常生活には多かれ少なかれ支障をきたします。褥瘡についても、この程度ならまだ傷は小さいからと、つい油断してしまいます。大事には至らんやろうと変にポジティブになりますが、本当は、面倒くさくて後回しにしているだけです。そのことは自分が一番分かっているだけで、そうやって褥瘡になっていくことは経験しているのに、同じことを繰り返すのは何故でしょう？自覚が足りないと言ってしまうとそれまでですが、それだけでしょうか？

私は、今日までのところ、褥瘡での入院やオペには至っていないものの、長期間通院しての治療を要したことがあり、大事な予定を断腸の思いでキャンセルしたり、頼まれごとを断ったりしたことがあります。もうそんな経験はしたくないと思いつつ、ちょっと前に、また、お尻に小さな傷ができて、滲出液が出たり出血したり、そして一時的に治ったりを繰り返していました。

褥瘡ができる主な原因は、圧がかかった皮膚の血の巡りが悪くなるからで、不衛生であったり蒸れたりすることも一因であるという知識は持っています。しかし、今回つくってしまった傷はこ

れまでとは異なり、皮膚の乾燥が主な原因のようです。衣類や寝具にほんの微量の血の付着を見つけた時、出血がどこからのものかわからず、傷が目視できる大きさになって初めて、乾燥した皮膚がひび割れし、そこから出血していたのだと分かりました。これまで、乾燥が原因で傷になるなんてことはなく、驚きました。乾燥で荒れてしまった皮膚は、すぐには元に戻らず、保湿に気を配って予防しなければいけないのだと知りました。

○加齢は既に訪れていた

20余年前、頸髄を損傷して間もない頃、頸髄損傷者の合併症について、看護師からいろいろと話を聞く機会がありました。一昔前は、頸髄損傷者が短命であったと聞かされたことを覚えています。私が受傷した頸髄4番5番でも、助からない人が結構いたということや、頸損歴が10年、20年の人はそんなに多くはおらず、感染症で亡くなる人が多いということも聞きました。しかし、医学は進歩し、今では、頸髄損傷者も長く健康に暮らすことができます。そして、それは同時に、頸髄損傷者も年齢に応じて生活習慣を見直したり、健康診断を受けたり、長い目で健康と向き合うことを意味します。頸髄損傷そのものに向き合うだけでなく、加齢にも対応しなければなりません。

加齢は…気付けば、自分にも訪れていました。記憶力の低下や老眼はとうに始まっており、そして、皮膚も例外ではありませんでした。思い返せば、ちょっと爪で皮膚をひっかいただけでも放っておくと赤く腫れたり、いつぶつけたのかわからない青あざを見つけたり、目に見える変化はありました。自然治癒力が落ちているのだろうとは思っていましたが、既に、褥瘡リスクも上がっているということには気付かなかったのです。

褥瘡を繰り返してしまうのは何故か？ひとつには、若い時の褥瘡治療で上手くいった経験、例えば、もっとひどくても治った…とか、こ

の前よりまだマシだ…といった経験が、正しい判断を遅らせているのかもしれませんが。若かりし頃と比べてはいけません。加齢を正しく理解しなければ、油断がうまれるのではないかと加齢は必ず訪れます。加齢を正しく知っておくことも、褥瘡予防のひとつということなのでしょう。

○保健指導を受けて

定期的に受けている健康診断。健康状態は数字によって明らかにされます。40歳を過ぎる頃から、中性脂肪が基準値を超えてしまったほか、善玉コレステロールが基準値を下回ったり、体重が徐々に増えたり…。食事で脂質を控えるよう心掛けていたものの、3年前にはついにメタボの判定が下されました。そして、このままではいけないと思い、保健指導を受けることにしました。

その保健指導は動機付け支援というもので、私にとっては衝撃でした。糖質の取り過ぎでも、中性脂肪値が上がることがあるとは、知りませんでした。高脂血症なのだからと、自己流で脂質を控えるなどしていたのですが、善玉コレステロールが低いのも、お尻の皮膚がガサガサに乾燥してしまったのも、脂質を控えたからなのだろうか？自己流はダメです。知識は正しく身につけないといけません。身をもって知りました。

生活習慣を見直せば、メタボは解消できるということで、食習慣から見直すことにしました。専門家のアドバイスに従い、お昼のインスタントラーメン、間食の煎餅を控え、ご飯の量を少し減らしました。こちんまりと盛られたご飯を見ると寂しいので、ご飯が多く見えるよう、茶碗を少し小さいものに買い替えました。また、果物も少しずつるようにしました。改善の経過をレポートで報告することになっていたのも、さばらず続けられました。成果が出ると褒めてもらったので、なかなか嬉しかったです。期間は3カ月間でしたが、腹囲は基準値以下に！翌年の健康診断では、中性脂肪値が大幅に下がりました。善玉コレステロールは、残念ながらさほど変わらずですが、やればできるのです！保健指導では、高い目標を立てたわけではなく、達成可能な目標設定だったことで、一通りの成果を得られたのだと思います。

その後、インスタントラーメンはすっかり食べなくなり、間食の煎餅は食べますが、習慣的に食べるということはなくなりました。改善によって、食べる楽しみを犠牲にしたとかの感はなく、むしろ、たまの外出、飲み会や旅行での食事は、今まで以上に楽しめるようになりました。

○節目の年齢に

一昨年前、節目の年の50歳、出身高校の同窓会がありました。10年振りなので、そろそろ自分以外にも車イスいるかな？と、思いながら出席。しかし、10年前と同様、車イスは私だけでした。ところが今回は前回と異なり、この10年間で亡くなった同級生が少なくないということを知りました。驚くと同時に、そんな年代になったのだと実感しました。私が頸髄を損傷したのは20歳代。受傷して間もない頃は、自分は頸髄損傷なのだから、皆より先に死ぬのだろうと思っていたのです。しかし、この歳になって死生観が変わったというか、健康は自ら築くものと思っています。

次の同窓会はまた10年後、還暦となる60歳。赤のちゃんちゃんこで再会しましょう！ということなので、赤の車イスで行こうと思っています。そのためにも、健康でいようと思ったのでした。

○おわりに

健康管理は、当然この先ずっと続けるのですが、加齢と戦うわけではなく、時の流れに逆らうわけでもありません。せつかく健康を維持しているのなら、大袈裟ですが、人生の楽しみを持つことも忘れないでいたいと思います。

私はスポーツ観戦が好きで、年に何度かはスタジアムにも足を運びます。車イス席には、お年を召された方も見かけます。そのスポーツ観戦を楽しむ姿に、最近では、そう遠くない未来の自分の姿を重ねて見るようになりました。あんな年の取り方なら、悪くないなと思っています。

健康であり続けるということは、到達することのない目標といえるのかもしれませんが。加齢とは何か？数年前まではピンとこなかったのですが、スタジアムに足を運べるくらいの健康を、維持していきたいと思っています。

人工呼吸器からの一時的な離脱を可能に

～ 横隔膜ペーシング治療という新しい選択肢 ～

USCI ジャパン株式会社

1. 総合せき損センターで国内初実施



総合せき損センター（福岡県飯塚市）

今年 2021 年 3 月に、脊髄損傷（C2/C3 不全）の当時 25 歳（現在 26 歳）の患者様に対して、国内初の体外式横隔膜ペースメーカーの電極植込み手術が行われ、術後の呼吸管理を総合せき損センター整形外科 益田宗彰 医師が実施されております。

横隔膜ペーシング治療について、総合せき損センター 院長 前田健 医師は、「横隔膜ペースメーカーは海外において、頸髄損傷の方に 1000 例以上に使用されており、腹腔鏡で電極を設置し、術後のトレーニングにより使用できる機器。頸髄損傷による呼吸障害に苦しむ患者さんにとって画期的な装置。2019 年には保険償還も開始されたため、今後恩恵を受ける患者さんが増えることを期待している。」と話されます。

今回の患者様は、睡眠時の人工呼吸器の離脱を目標に、ペーシングのトレーニングを実施されており、患者様は順調にペーシングの時間を延長しています。

益田医師によれば、「約 1 か月でペーシングの連続使用時間を 90 分まで延ばせた。横隔膜の機能回復なども確かめながら、4 時

間、8 時間と連続使用時間を延ばしていき、横隔膜ペーシングで眠れることを目標にトレーニングを続け、術後 3 か月で達成した。今後気管切開閉鎖も実現できそうだ。人工呼吸器離脱後もバッグバルブマスク等の携帯は必要だが、QOL が改善し、呼吸器関連肺炎のリスクも抑えられることを期待している。」と話されます。また、今後の横隔膜ペーシング治療について「現在 1 例の実施ではあるが、感触としては従来の NPPV を用いた管理よりも、横隔膜ペーシングの方が、若干ではあるが年齢による適応条件を緩和できるのではないかと、より広い年齢層に適応できるのではないかと考えている。実施数を増やしていくことで、より多くの必要とされる方の呼吸補助の選択肢の一つとなり得る。少しでも興味があれば、担当医に相談したうえで紹介してもらえれば、実施の検討を行いたい。」と話されます。



総合せき損センターの
前田医師（左）と益田医師（右）

2. 横隔膜ペーシング治療とは

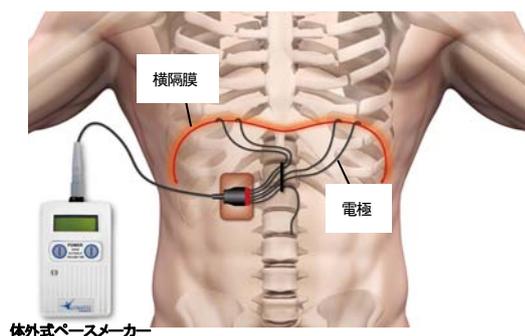
横隔膜ペーシング治療は 1970 年代より始まった治療法で、2019 年に国内で初めて保険償還が開始されたことにより、患者様の経済的負担も少なく治療できるようになりました。

本治療の適応疾患は、横隔神経の電気刺激により横隔膜の収縮が可能な、人工呼吸器に依存する【脊髄損傷】及び【中枢性低

換気症候群】の患者様となります。海外では多くの完全損傷の患者様や、受傷後20年以上経過してから植込みをされた患者様もいらっしゃいます。

本治療の手術は、腹腔鏡手術により2時間程度の所要時間で、比較的侵襲性に行う事が可能です。電極は横隔膜に左右2本ずつ経皮的に植込まれ、体外式ペースメーカーにより電気信号を送ることで横隔膜を収縮させます（収縮により肺が膨らみ、息を吸うことができます）。その後、電気信号が止み、横隔膜が元の位置に戻る（弛緩により肺が元の大きさに戻り、息を吐くことができます）ことで、呼吸の補助を行います。横隔膜ペーシングの間は、人工呼吸器から離脱できます。

術後は横隔膜のリハビリトレーニングを実施し、在宅での管理が可能となります。体外式ペースメーカーは、小型で携帯性に優れており（重さ：約270g、サイズ：8×13.7×3.4cm）、モーター等の駆動音がなく静かで、外出も容易となります。駆動には市販の単2形のアルカリ乾電池やリチウム乾電池が用いられることから、災害時の電源確保においても容易に対応が可能です。



3. 治療の手順について

横隔膜ペーシング治療は、次のような手順で行います。

① 適応判断

医師により、本治療が患者様に適応できるかどうかを検査等で、判断します。

② 電極の植込み手術

腹腔鏡手術（腹部に小さな穴を空けて行う）により、横隔膜に電極を植込みます。

③ 初期設定

植込み後、体外式ペースメーカーの初期設定値（電気信号の強さや回数など）を患者様の状態を考慮して設定します。

④ 横隔膜トレーニング

横隔膜を電気刺激に慣れさせるため、横隔膜のトレーニングを行います。

今回の症例の場合、「術後はまず、若干の違和感はあるようだったが痛みなどは少なく30分間ペーシング、60分間休憩（呼吸器なし）を1セッションとして使用開始した。トレーニングのすべてのセッション終了後と夜間は呼吸器を装着した。」（益田医師）

⑤ 日常使用

病院内でのトレーニングを行い、医師により日常的に使用しても問題ないと判断されれば、在宅での使用が可能となります。

【病院概要】

総合せき損センター

院長：前田 健

住所：福岡県飯塚市伊岐須 550-4

TEL：0948-24-7500

URL：<https://sekisonh.johas.go.jp/>

お問い合わせ

USCI ジャパン株式会社

住所：東京都渋谷区代々木 3-28-6

TEL：03-6823-1100

FAX：03-5354-8540

URL：<http://www.usci.co.jp/>

（受付時間：月～金曜日 9:00～17:30）

メールアドレス：neurx@usci.co.jp

横隔膜ペーシング治療紹介サイト

<https://www.d-pacing.net/>

1. 対象となる障害者の範囲

①. 対象者は、重度訪問介護、同行援護、行動援護の支給決定を受けていることを基本にして、週 10 時間以上勤務している障害者

ただし、公務労働関係、議員活動はすべて排除

②. 「雇用施策との連携による重度障害者等就労支援特別事業」では、労働者だけでなく、自営業者や法人代表も対象となっています。

(注) 自営業や法人代表の場合、雇用納付金に基づく助成金制度を使うことはできないが、「自営業等」については、全部の時間が福祉の「特別事業」の対象になります。

(注) 従来からある雇用納付金に基づく「障害者介助等助成金」では、重度視覚障害と四肢麻痺のみで、週 20 時間以上勤務が条件になっている。(こちらの制度も継続)市町村が、特別事業を実施しなければ、従来の制度を使わざるを得ません。

2. 対象となるサービス

①. 職場介助について

例) パソコン操作や仕事関係資料の代読など就労に係る支援 → 拡充策 (労働)

仕事のための外出 → 拡充策 (労働)

例) 上記以外の体位変換、食事、排せつ、見守りなど (痰吸引等の医ケア含む) → 特別事業 (福祉)

②. 通勤について

申請した年度および毎年度のはじめの 3 か月目まで → 拡充策 (労働)

4 か月目以降について → 特別事業 (福祉)

3. サービスの位置づけ、報酬金額と出どころ

①. 労働施策である「拡充策 (介助、通勤)」については、介護にかかる費用 (ヘルパーへの給与や必要経費) = 派遣事業所との「委託契約」で決めた派遣報酬に対する「雇用納付金に基づく助成金」であり、「JEED」(高齢・障害・求職者雇用支援機構)に「助成金申請」をおこなうことで支払われます。

「拡充策」(職場介助)の補助率は、大企業 (週 20

時間以上勤務が 100 人以上) は 4/5、中小企業の場合は 9/10 に拡充され、上限額は大企業 13 万 3000 円、中小企業は 15 万円。年限はありません。

「拡充策」(通勤援助)の補助率は、大企業 (週 20 時間以上勤務が 100 人以上) は 4/5、中小企業の場合は 9/10 に拡充され、上限額は大企業 7 万 4000 円、中小企業は 8 万 4000 円。

②. 福祉施策である「特別事業」について、報酬額は「重度訪問介護等に相当する金額」で、報酬の支払いは移動支援などと同じで、市町村に対して毎月「事業利用料」(「重度訪問介護に相当する金額」から、利用者負担を引いた金額)を請求することで支払われます。各種加算はありません。

(注) 重度訪問介護などをそのまま使えるようになるものではありません。

4. 手続き

①. 市町村が、「特別事業」を実施することを求めて、事業を行うことが確認されなければなりません。

例) 具体的な事例を検討し、必要であれば市町村に対して要望書を作りこの事業についての話し合いをおこないます。

②. 関係者間で支援計画を作る

例) 本人と事業者で原案を作り、関係者 (市町村担当者、本人、事業所労務担当者、事業所派遣担当者など)を集め会議を開いて支援計画書を確定し、その書類を「JEED」に提出します。

③. JEED から確認済みの支援計画書を受領し、市町村に対して、本人が特別事業の申請をおこないます。

④. 上記の JEED の受領確認印がある「支援計画書」を添付すると支援開始となります。

毎年度ごとに計画書作成と申請が必要となります。(年限はありません)



※¹



※²

※¹ <https://www.jeed.go.jp/disability/subsidy/om5ru8000001j13-att/q2k4vk000003a82h.pdf>

※² <https://www.mhlw.go.jp/content/11704000/000675279.pdf>

当事者が考えた防災避難計画から見た課題

STEP えどがわ 市川 裕美

STEP えどがわは、どんな重度な障害があっても地域であたりまえに暮らせる社会の実現を目指して江戸川区を拠点に活動する自立生活センターで、頸髄損傷をはじめ様々な障害のある人たちの地域生活を支援しています。ホームヘルプの利用者は50名程度で半数程度が独居で生活しています。

私たちは2007年頃から事業所として防災に取り組み始めましたが、はじめは専ら地震についての対策でした。しかし、ここ江戸川区は海拔ゼロメートル地帯であり、周囲を荒川・江戸川・東京湾に囲まれており一度河川が氾濫すると2週間以上浸水するところもあると言われていて、大規模水害についても検討が必要であるという認識になりました。2019年の6月に江戸川区がハザードマップを配布し区民説明会も開催され、大規模水害が起こる可能性が高まると江東5区（江戸川区・江東区・葛飾区・墨田区・足立区）の共同検討会が開催され、概ね2日前には区外への広域避難が呼びかけられるという事が公表されました。区外へ避難と言われても、日常的に介助を必要とする人にとっては単独で区外へ避難し一定期間自宅を離れての生活というのは難しく、だからといって自宅に留まればライフラインが途絶え、介助者も来れないような状況に2週間耐えられるはずもないため、事業所として介助者やその家族も含めて集団で広域に避難する必要があるのではなかと検討を始めていました。

それからわずか4か月、つい1ヶ月前に隣の千葉県で甚大な被害が出た台風15号の爪痕も消えない頃に更に大規模な台風が発生し、同じようなルートを通る事が予測されていました。台風上陸予測3日前、江東5区の検討会は開かれていないものの、気象庁が「命を守る行動を」との緊急会見を開いたのです。更にその際「東京湾近郊の土地の低い地域は自治体の発表を待たずして避難を検討したほうが良

いかかもしれない」との発言を受け、とりあえず独居と1階に住む利用者に避難の希望を確認しました。思いの外、避難を希望する人は少なく、また、避難先として区外のバリアフリーの宿泊施設を探しましたが、あいにく3連休の初日という事もありどこも満室で避難先の確保が出来ませんでした。そこで区内のマンションの6階にある事業所の部屋と、広域避難をするスタッフの家を避難所として開放する事としました。台風上陸予測12時間前、垂直避難を開始していた頃、荒川の水位が上昇し氾濫の危険性が高まったと、一部地域に避難勧告が発令され、避難所が開設されたのです。その時点で既に車椅子で外に出るのは気が引けるほどの大雨となっており、避難所へ行く事も困難な状況となりほとんどの人はそのまま自宅で台風が行き過ぎるのをただ待つだけとなりました。数名がなんとか区の避難所に避難したものの、車椅子に対する特別な配慮などがあるわけではなく苦痛の時間を過ごす事となりました。幸い日付が変わる頃台風は通過し風はまだ強かったものの雨は止み、星空が広がっていたので避難した者たちの多くは自宅へと戻っていきました。しかし荒川の水位は上がり続け、氾濫水位まであと70cmというところまでとなりましたが、6時頃をピークにギリギリのところまで留まるという状況でした。大潮にあたる時期、満潮の時間と台風の接近の時間がずれた事、荒川上流で氾濫した事など様々な偶然が幸いして大規模水害になる事は避けられましたが、状況が違えば大水害が起きていたかもしれなかったのです。

この体験から、限られた時間の中で様々な意思決定をして適切な避難行動をするためには事前の準備が大切であることを痛感しました。本当に大水害が起きてしまう前にその対策を検討する事としました。まず避難先の検討として十数名が宿泊可能な清里（山梨）のバリアフリーペンション「ライフクオリ

ティ・カーザ」に総勢 12 名で避難訓練を行なう事としました。なるべくリアルに災害時をイメージできるように台風 19 号発生から上陸までの時系列に合わせ、参加者には 3 日前から避難の意思確認や避難準備を促すメールなどを送り避難当日に向けた準備を行ないました。事務所のリフトカーに車椅子 2 人と健常者 4 名、電車も車椅子 2 名と健常者 4 名に分かれて分散移動とする事にしました。

電車は避難先が決まってしまう翌日に避難となりますが、特急に乗るには事前の車椅子席の予約が必要で、そこにかかなりの時間を要しました。その上、車内カートの移動スペースの関係で、車椅子のまま乗車できるのは 1 人で、もう 1 人はたたんで座席に移乗する必要がありました。

一方、車移動は車椅子 2 名が乗車可能ですが、浸水が 2 週間に及ぶ可能性があるとの事で 2 週間程度の荷物を持つての移動となるとそれなりの量になるため一度に乗車できる人数が限られます。



避難訓練に使用したリフトカー

また、今回は事前に計画していた訓練なので避難の決心も荷物の準備も事前にできていましたが、台風発生から避難までの短い時間に俊敏に行動できるか、迷っているうちに出発になってしまい逃げ遅れる人も出るのではないかと懸念もあります。ただ、避難先は人気の観光地のバリアフリーペンションなので「避難訓練」というより単なる旅行と変わらない快適な時間を過ごす事が出来ました。少人数なら本当に旅行気分ですべて避難してしまうのも一つ

の策であろうと思います。集団で避難するからこそ問題がいろいろ出てくると感じました。更に規模を 50 人に拡大して訓練を試みようと思った矢先、コロナの為に延期となり現在に至っています。こういった訓練を重ねていく事で様々な気付きを得られると共に、利用者一人一人も防災の意識を高めて欲しいと思っています。

江戸川区も 19 号の経験から、内閣府のモデル事業として名乗りをあげているようで、本腰を入れて要配慮者の個別避難計画の作成を一大事業として取り組み始めたところです。

今この時に地域で暮らす障害当事者の声をしっかりと区政に反映していけるよう届けていきたいと思っています。



バリアフリーペンションでの会議の様子



避難訓練に参加したメンバー

バリアフリーペンション「ライフクオリティ・カーザ」
<https://casakiyosato.wixsite.com/lifequality-casa>

九州支部活動紹介

防災学習会に参加して

障害者自立生活センターぱり FLAT おおいた 代表 五反田 法行

令和3年7月3日(土) 13:30~16:00 に医療的ケア児の親子サークル「ここから」による防災学習会が県庁舎本館6階防災センターで開催されました。約20数名の参加者で行政、障がい当事者、障がい当事者の家族、災害支援団体、医療関係者の様々な人たちで学習会が進められました。

初めに医療的ケア児の親子サークル代表の安藤さんより、参加者の紹介と挨拶がありました。次に、県の事業について、防災対策企画課の担当者から大分県における災害関連の事をお話して頂きました。その中で、令和3年5月より避難情報について「避難勧告」が廃止され、「避難指示」で必ず避難するように情報が周知されました。また、「大分防災 VR」「おおいた防災アプリ」の紹介もありました。(下記 QR にて確認出来ます!)



Google Play



App Store



おおいた防災 VR

次に、避難行動要支援者に関する取組みについて、福祉保健企画課の担当者から説明がありました。令和3年5月より市町村において「避難行動要支援者名簿」が義務化され、「個別避難計画」については努力義務になりました。また福祉避難所への直接避難についても、今後、検討が進められ、個別避難計画を作成する中で調整していくことになりました。今後の個別避難作成が期待されます。

上記の話を受けて、休憩を挟み講義が行われました。医療的ケア児とその家族における「マイタイムライン」の活用について、NPO 法人リエラ代表理事・松永鎌矢氏、医療的ケア児への災害時支援について、NPO 法人レスキューサポート九州代表理事・木ノ下勝矢氏より、貴重なお話を聞くことが出来ました。今回の学習会に参加させて頂き、当センターでも障害のある人の自立の支援をしている中で、災害についてのリスクや備えも大事だと改めて感じる事が出来ました。また医療的ケアを必要とする人たちは、日々災害のリスクを抱えながら生活を送っていることも知りました。今後、障がい当事者として何が出来るかを模索し、これから防災意識を強めていきたいと思いました。

避難！ となったときに慌てないために

安心を備えませんか



事務所移転のお知らせ

九州頸髄損傷者連絡会 会長 神田 憲治

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、弊社は下記の通り移転することとなりました。

これを機に、社員一同、皆様のご期待に添うべくより一層の努力をいたす所存でございますので、何卒今後とも倍旧のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

まずは略儀ながら書中をもってご挨拶申し上げます。

事務所移転にともない新しい住所になりました！

「NPO 法人自立支援センターおおいた」 「九州頸髄損傷連絡会」
〒874-0919 大分県別府市石垣東3丁目3番16号 別府J1階
NPO 法人自立支援センターおおいた内
電話番号 0977-27-5508
FAX 番号 0977-24-4924

バリアフリーな造りになっておりますので、近くまでお越しの際には、ぜひお立ち寄り下さい！



「障害当事者こそが変える！人手不足の介護現場」参加報告

兵庫頸髄損傷者連絡会 土田 浩敬

1、はじめに

みなさんこんにちは。今回、一般社団法人日本リハビリテーション工学協会（以下、リハ工とする）中国四国支部主催で開催されたセミナー「障害当事者こそが変える！人手不足の介護現場」に障害当事者として参加しました。

2、概要

日時：2021年6月26日（土）13時半～16時

会場：オンライン zoom

プログラム

- ・開会のあいさつと企画への想い
- ・人材不足とノーリフティング
- ・当事者からの発信 1～3
- ・参加者でディスカッション

主催：日本リハビリテーション工学協会
中国四国支部

3、リハ工支部オンラインセミナー

私は高位頸髄損傷者で全く両手足を動かすことが出来ません。

日常生活はチンコントロールタイプ（顎で車椅子を操作する）の電動車椅子に乗って生活しています。私はヘルパーを利用しながら生活しているのですが、自分にとって大切な存在です。介助者不足というのは、私にとって大変重要な問題です。

開会のあいさつと企画への思いを中国四国支部の谷口公友氏が話されることから始まりました。そしてこれまでの活動内容も説明されました。

それから、ナチュラルハートフルケアネットワークの代表の下元佳子氏から、ノーリフティングの必要性を分かりやすく伝えられました。活動されている高知県で地道な活動からスタートされて、現在では県を上げてノーリフティングに取り組まれている様子が印象的でした。



谷口氏（左上）、鈴木氏（右上）、下元氏（左下）

同じ頸髄損傷者で、以前からもよくお世話になっている鈴木太氏から福祉用具の活用法と、これまでの軌跡と現在の生活の様子が話されました。私も福祉用具を利用しながら生活しているのですが、介護リフターやスライディングシートを、私とは違う使い方でおかつ有効的にされる動画を見て、私の中にあった既成概念がよい意味で崩されました。便利な福祉用具を効率よく活用していければ、介助者の負担も減ってくるのではと思いました。

他にも、介護リフターを使って家の中を自由に移動されるお子様の様子は、心が和むものとなりました。介護リフターを使ってでも、家の中を動き回るこの経験は将来に繋がる取り組みだと感じました。

4、まとめ

福祉用具は便利に利用出来て、介助者の体への負担を軽減させてくれるものでもあります。人手不足を本気に考える障害当事者であれば、介護の負担を減らすために、出来る限り福祉用具を便利に利用していきたいものです。

※この報告は、一般社団法人日本リハビリテーション工学協会発行のリハビリテーション・エンジニアリング Vol.36 No.3,にも同じ内容が掲載されています。

お役立ち!?

全国頸髄損傷者連絡会 鴨治 慎吾

依然続くコロナ感染症の中、皆さんはいかがお過ごしでしょうか？今回は、健康管理に役に立ちそうなものをピックアップしてみました。もし、良い情報などありましたら、編集部にお知らせください。

◎非接触型 非接触電子温度計 (スマホに取り付け)

商品仕様

電源: DC 5.0V 測定距離: 3~5CM
 測温範囲: 32~42.9°C 測定時間: 約1秒表示



★スマホに接続！知能温度計

★iPhone(ios) / Android(Type-C)対応

※Android 端末は Type-C の接続口に利用可能

★赤外線測定で直接接する必要がなく、安全に測定する事が出来ます。

★物体測定モード (液体や食品等)、人体測定モード (手、額の温度測定)

サイズ(約) : 43×14×35mm 重量(約) : 22g

価格 : ヤフーショッピングで約 1,500 円程度

販売店 ワールドスター (yahoo ショップ)
 メール worldstar_info@yahoo.co.jp
<https://store.shopping.yahoo.co.jp/worldstar/>

◎パルスオキシメーター



指にはめて使います。

心拍計 指 脈拍 血中酸素濃度計

測定方法 2 波長吸光度法

電源 単 4 形アルカリ電池×2 個

電池寿命 約 3,000 回

連続使用時間 約 32 時間

サイズ 約 57×31×30mm

重量 約 23g (電池を含まない)

付属品 動作確認用電池 (単 4 形アルカリ乾電池 2 個)、ストラップ

価格 : ヤフーショッピングで約 5,000 円程度

株式会社ドリテック

〒333-0811 埼玉県川口市戸塚 2 丁目 11 番 8 号

<https://www.dretec.co.jp/>

◎聴診器 (ステート)



自分でも呼吸状態が把握できます。

各種インターネットサイトでも販売しています。

値段は 1,500 円位からあり、メーカーや商品によって精度が違う様です。

看護師さんに相談してみるのも良いかもしれません。

ようやく、コロナワクチン接種が始まりました。できるだけ早めに接種されることがよいと思います。まだ当分続くと思われるコロナ感染症ですが、皆さん、十分な予防対策を心がけましょう。

報道・情報ピックアップ

高知新聞 2021.03.22 08:38

車いす避難の危険箇所は？ 四肢まひの防災士がマップ作成 高知市

四肢まひなどの障害を負いながら、防災士として活動する高知市小津町の桑名秀輔さん（36）が、自宅周辺の「車いす用防災マップ」を高知大生らと作成した。道路の段差など、避難時に障害となり得る場所や車いす避難者を支えるポイントを記しており、このほど地元町内会に約90枚を配布した。

桑名さんは土佐中1年だった1998年に交通事故に遭い、四肢まひと、発声がうまくできない障害を負った。車いす生活を続け、県立大の講義などで防災や福祉を学び、2017年に防災士資格を取得した。

昨年、高知市にマップ作りを相談し、高知大の防災サークル「防災すけっと隊」が協力することに。地元の小津町南町内会も加わり、昨年11、12月の2回、実際に町内を巡ってチェックした。

マップには倒壊の恐れがあるブロック塀や車いすが通りにくい道路の段差など10カ所を写真で紹介。「車いすは3センチほどの段差でも進むことができない」「側溝のふた（グレーチング）にタイヤがはまって動けなくなる可能性がある」と注意点を添えた。

また、高知大付属小学校など2カ所の津波避難ビルに避難する際は「電動車いすは大人2人で運ぼう」「下りる時は誘導する人が必要」とアドバイスを盛り込んだ。

周辺は南海トラフ地震で最大2メートルの浸水が想定される。「要支援者が逃げ遅れることに危機感があった。防災士として得た知識を基に、地域に提言したかった」と桑名さん。

すけっと隊の鈴木嵩大（たかひろ）代表（22）は「普段は気付かない道路の傾斜や段差が障害になることが実感できた。今回の経験を生かし支援者の力になりたい」と話した。（海路佳孝）

朝日新聞デジタル 2021年6月10日 17時03分

医療的ケア児支援法成立へ 保育所・学校に看護師ら配置

胃ろうやたんの吸引、人工呼吸器といった医療的ケアが日常的に必要な子ども「医療的ケア児」と、その家族への支援を充実させる法案が今国会で成立する見通しになった。保育所や学校などに通う機会が平等に得られるように、医療的ケアを行う看護師らの配置を設置者に求めることなどが柱となっている。

10日の参院厚生労働委員会で全会一致で可決された。近く参院本会議で成立する。

厚生労働省によると、医療的ケア児は全国に推計で約2万人いる。生まれつきの病気や障害などの影響で医療的ケアが欠かせない。新生児への医療技術の進歩を背景に、こうした子どもたちは年々増えている。

2015年から、超党派の国会議員や支援団体などでつくる「永田町子ども未来会議」が法案内容の検討を進めた。提出した法案は国と自治体が支援の拡充へ必要なことをする責務がある、と明記。保育所や学校などへの看護師の配置のほか、各都道府県に相談や情報提供を行う支援センターを設けることも求められる。

法律上はこれまで、児童福祉法に自治体の努力義務の規定があるだけだった。医療的ケアができないとして、保育所で受けて入れてもらえなかったり、保護者が学校などに付き添ってケアを求められたりしていた。保護者の離職にもつながり、家族だけに大きな負担が集中することが問題となっていた。

法案づくりに取り組んできた立憲民主党の荒井聰衆院議員は「(これまでの)努力義務だけでは、できる施策も予算の獲得も限界があった」と話し、成立の意義を強調する。（久永隆一、山下剛）

共同通信 5/28(金) 12:11 配信

民間事業者にも障害配慮義務付け 改正差別解消法成立

障害がある人の移動や意思疎通を無理のない範囲で支援する「合理的配慮」を企業や店舗などの民間事業者に義務付ける改正障害者差別解消法が28日の参院本会議で全会一致で可決、成立した。政府は、あらゆる人が暮らしやすい「共生社会」を実現するため、環境整備を急ぐ。

これまで配慮の義務付けは国や自治体のみで、民間事業者には努力を求めただけだった。準備に時間が必要として、施行日は公布から3年を超えない日とした。政府は事業者と障害者の双方に対応する相談窓口の整備や、どのような配慮が必要かをまとめた事例集の周知を進め、可能な限り早い施行を目指す。

Impress Watch 2021年6月14日 08:00

障害者用 IC カード、関東の鉄道で2022年後半導入

2022年度後半を目処に、関東の鉄道事業者において「障害者用 IC カード」を導入する。国土交通省は11日、赤羽大臣によるバリアフリーの取り組みに関する4つの大臣指示の内容を公表、障害者用 IC カードやウェブによる障害者用乗車券・乗船券の予約・決済などが盛り込まれている。

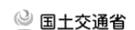
大臣指示の内容は以下の4点。

1. 障害者用 IC カードの導入
2. 特急車両における車椅子用フリースペースの導入
3. ウェブによる乗車船券等の予約・決済の実現(マイナポータルとの連携を含む)
4. 精神障害者割引の導入促進

障害者用 IC カードについては、関東の鉄道事業者間において、2022年度後半の導入を目指すことで合意し、システム改修など実務的な検討に着手した。また、バスについても、関東圏での導入に向けて、議論を進めていく。

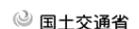
特急車両における車椅子用フリースペースの導入は、一部の新幹線などで進められているが、計画的に推進していく。

ウェブによる障害者用乗車船券等の予約・決済は、知的障害者の資格情報のマイナポータル連携も想定。精神障害者割引の導入促進とともに、具体的な方向や目標などを検討していく。



新たなバリアフリーの取組4項目

取組項目	先進事例 (取組中のものを含む)	現在の対応状況等	大臣指示内容
① 障害者用 IC カードの導入	関西圏の民鉄・バス(スロット KANSAIL協会の)、西日本鉄道グループ(鉄道・バス)等	・関東の鉄道事業者間において、2022年度後半の導入を目指すことで合意 ・現在、システム改修など実務的な検討に着手 ・バスについても、関東圏での導入に向けて、実務的な議論を進めている	本取組の実現に向けた検討等を加速化し、着実な実現を目指すこと (特に、関東圏の障害者用 IC カードについて、2022年度内の導入に向けた取組を着実に進めること)
② 特急車両における車椅子用フリースペースの導入	新幹線については指図済 ・東海道新幹線 N700S：車椅子スペース6箇所 ・北陸新幹線 E7系：車椅子スペース4箇所	・国土交通省において、障害者団体、鉄道事業者等で構成される意見交換会を開催し、検討中	
③ ウェブによる障害者用乗車船券等の予約・決済の実現(マイナポータルとの連携を含む)	(鉄道) 東海道・山陽新幹線(試行実施中)、近鉄等 (バス) 高速バスネット等(旅客船) 津軽海峡フェリー等(航空) ANA JAL 等	・国土交通省から各事業者等に対し、検討要請を実施 ・国土交通省内において、実現に向けた課題、対応方針の整理や今後の具体的な工程表を検討中 ※令和4年6月から、知的障害者の資格情報もマイナポータルと連携予定	本取組の具体的な方向性や目標等を早期に定め、その実現に向けた検討等を開始すること
④ 精神障害者割引の導入促進	西日本鉄道 等	・国会の請願採択等を踏まえ、各事業者に要請を実施 ・国交省と厚労省、JR各社との間でそれぞれ意見交換等を実施	2



真の共生社会実現に向けた新たなバリアフリーの取組 ~官民連携による先進的取組の全国展開等~

新たなバリアフリーの取組の考え方

- 国土交通省では、オリンピック・パラリンピック東京大会を契機とした真の共生社会の実現に向けて、今年度から5年間の新たな「バリアフリー整備目標」(第3次目標)を策定し、鉄道駅のエレベーターやホームドア整備の加速化等、ハード面を中心とするバリアフリー化を推進。
- さらに今後は、こうしたハード面の取組に加え、障害の有無や特性に関わらず、**全ての人が同じように便利で安心な公共交通機関を利用**することができるよう、デジタル新時代を見据えつつ、バリアフリー施策を段階的に高度化していくことが重要。
- このため、**今般、その第一弾として**、従前より障害当事者団体から継続的に要望がなされているものの、技術的課題の存在等により、一部事業者の対応に限られている先進的取組のうち、特に**当事者の利便性の改善や負担軽減効果の大きい以下の取組**について、行政側の強いリーダーシップの下、官民連携による課題解決を図り、**全国展開等を目指していくこととする。**
 - ① 障害者用 IC カードの導入
 - ② 特急車両における車椅子用フリースペースの導入促進
 - ③ ウェブによる障害者用乗車船券等の予約・決済の実現(マイナポータルとの連携を含む)
 - ④ 精神障害者割引の導入促進

今後の取組方針

- **4つの新たな取組について、大臣指示**
 - ① 導入時期等の目標のある施策について、その実現に向けた検討等を加速化し、着実な実現を目指すこと
 - ② その他の施策について、具体的な方向性や目標等を早期に定め、その実現に向けた検討等を開始すること
- 上記大臣指示を踏まえ、官民連携による課題解決に向けた検討会の開催等、**本取組を実現するための具体的な手法やスケジュール等を定め、計画的に推進**する。また、その進捗状況等について適切に**フォローアップ**する。 1

全国頸損連絡会 & 関係団体 “年間予定”

(2021年9月～2022年3月)

事務局

年間予定は、新型コロナウイルスの影響により、変更される可能性があります
詳しくは主催者にご確認ください

[2021]

9月25～26日(土～日)	第35回リハ工学カンファレンス in 北九州	(オンライン)
10月16～17日(土～日)	DPI 日本会議常任委員会	(オンライン)
10月24日(日)	頸損解体新書2020完成報告会	(オンライン)
10月28日(木)	京都市交通局との要望交渉	
	(京都支部：日本自立生活センターとの協働)	
11月7日(日)	四国頸損の集い2021	(未定)
11月10～12日(水～金)	第48回HCR国際福祉機器展	(東京ビッグサイト)
11月18～19日(木～金)	リハビリテーション・ケア合同研究大会 兵庫2021	
	(ANAクラウンプラザホテル神戸、神戸芸術センター)	
11月19～20日(金～土)	高知ふくし総合フェア	(高知ちばさんセンター)
11月20日(土)	支部間オンライン交流会(京都・兵庫)	(オンライン)
11月27～28日(土～日)	DPI 日本会議政策討論集会	(オンライン)
12月11～12日(土～日)	DPI 日本会議常任委員会	(オンライン)

[2022]

2月	第13回バリアフリー推進四国地域連絡会議	
2月12～13日(土～日)	DPI 日本会議常任委員会	(オンライン)

※ 予定日時・場所は変更になる場合がありますのでご了承ください。

※ 全国機関誌『頸損』発行 4月・8月・12月(年3回)

※ お問い合わせは該当各支部、本部事務局までお願いいたします。

頸損解体新書2020完成報告会

～ 自分らしくあるために ～

「頸髓損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査2020」の最終報告会です。

日時 2021年10月24日(日) 13:00～16:30

会場 オンライン開催(Zoom ミーティング)

主催：頸損解体新書2020 実行委員会

参加費：無料

詳細は、<https://k-son.net/research2020/> からご覧ください。



全国頸髄損傷者連絡会連絡先

(2021 年 8 月現在)

全国頸髄損傷者連絡会・本部

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1 フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ぼしぶる内

TEL 079-555-6022 e-mail:jaqoffice7@gmail.com <https://k-son.net/>

【郵便振替】口座番号:00110-0-62671 口座名義:全国頸髄損傷者連絡会

※ 各支部、地区窓口に連絡がつかない場合は本部にお問い合わせください。

※ 電話でのお問い合わせ等は、平日 10 時～17 時の間にお願いいたします。

福島地区窓口 「福島頸損友の会」

〒961-8031 福島県西白河郡西郷村大字米字中山前146-1(相山方)

TEL 080-1656-1727 e-mail:hidamari.s@gmail.com <http://fukushima-keitomo.e-whs.net/>

栃木頸髄損傷者連絡会

〒320-8508 栃木県宇都宮市若草1丁目10番6号 とちぎ福祉プラザ内(2F)

TEL&FAX 028-623-0825 e-mail:keison@plum.plala.or.jp <http://www16.plala.or.jp/tochigi-keison/>

東京頸髄損傷者連絡会

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-1-2 伊藤マンション 205(鴨治方)

TEL 090-8567-5150 e-mail:tokyokeisonn@gmail.com <http://www.normanet.ne.jp/~tkyksen/index.html>

神奈川頸髄損傷者連絡会

〒228-0828 神奈川県相模原市麻溝台696-1 ライム106号室(星野方)

TEL&FAX 042-777-5736 e-mail:h-futosi@wa2.so-net.ne.jp

静岡地区窓口

〒426-0016 静岡県藤枝市郡1-3-27 NPO 法人障害者生活支援センターおのころ島気付

TEL 054-641-7001 FAX 054-641-7181 e-mail:matunosuke@cy.tnc.ne.jp

愛知頸髄損傷者連絡会

〒466-0035 愛知県名古屋市昭和区松風町2-28 ノーブル千賀1F AJU自立生活情報センター内

TEL 052-841-6677 FAX 052-841-6622 e-mail:kito@aju-cil.com

頸髄損傷者連絡会・岐阜

〒503-0006 岐阜県大垣市加賀野4-1-7 ソフトピアジャパン702 バーチャルメディア工房内

TEL&FAX 0584-77-0533 e-mail:kson_g@yahoo.co.jp <http://g-kson.net/>

京都頸髄損傷者連絡会

〒601-8441 京都府京都市南区西九条南田町4番地 九条住宅B棟313(村田方)

TEL 090-8886-9377 e-mail:keison@ev.moo.jp

大阪頸髄損傷者連絡会

〒534-0027 大阪府大阪市都島区中野町3-4-21 ベルエキップ・オグラン1階 自立生活センターあるる内

TEL&FAX 06-6355-0114 e-mail:info@okeison.com <http://okeison.com>

兵庫頸髄損傷者連絡会

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1 フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ぼしぶる内

TEL 079-555-6229 FAX 079-553-6401 e-Mail:hkeison@yahoo.co.jp <http://hkeison.net/>

香川頸髄損傷者連絡会

〒768-0104 香川県三豊市山本町神田1223(長谷川方)

TEL 0875-63-3281 e-Mail:tsu-chan.h@shirt.ocn.ne.jp

愛媛頸髄損傷者連絡会

〒799-0433 愛媛県四国中央市豊岡町豊田336-2(山下方)

TEL 0896-25-1290 e-mail:ehimekeison@gmail.com

徳島頸髄損傷者連絡会

〒779-1402 徳島県阿南市桑野町岡ノ鼻28番地(江川方)

TEL 0884-21-1604 e-mail:awakeisons@gmail.com

九州頸髄損傷者連絡会

〒874-0919 大分県別府市石垣東3丁目3番16号 別府J1階 NPO 法人自立支援センターおおいの内

TEL 0977-27-5508 FAX 0977-24-4924 e-mail:kkr@jp700.com



愛媛支部から紹介：「松山城」松山市内を見渡せる勝山（標高131m）の山頂に本丸があります。日本三大平山城に数えられ、四方八方を見渡すことができます。山頂は桜の名所で、春には三町がピンクに染まります。

ロープウェイが整備され途中の長者ヶ平まではロープウェイ、そこから本丸の手前までは車椅子で登ることができます。少し注意は必要ですが、2012年の全国総会では全国から参加の頸髄損傷者、ボランティアの方々と登ることができました。

編集部通信

●頸損者に役立つ情報、編集企画、また機関誌へのご意見を募集しております

編集部連絡先（担当：八幡） E-mail：bxn06214@nifty.com

全国頸損連絡会・本部事務局 E-mail：jagoffice7@gmail.com

TEL：079-555-6022

●当会では、善意の活動支援寄付もお願いしております

郵便振替口座番号：00110-0-62671 口座名義：全国頸髄損傷者連絡会

■機関誌広告募集 年3回発行（4月・8月・12月）

機関誌「頸損」は、全国頸損会員（約500名）及び関係する方々に購読していただいています。当会では、広告掲載して活動支援をしていただける、福祉・医療機器業者の方を募集しております。当会HP <http://k-son.net/> をご参照いただき、是非、広告掲載をご検討いただけたら幸いです。

[広告掲載要綱]

◎料金：1ページ・2万円 / 半ページ・1万円（※1年以上継続契約の場合は半額割引）

◎問い合わせは上記の編集部連絡先、または本部事務局までお願いいたします。

編集後記

東京オリンピックも終わり、この冊子が皆さんに届くころには東京パラリンピックも終わっているだろう。数年をかけて多くの障害者が集い、声をあげたことで、色々な施設や、交通手段が変わっていった。結果としてはコロナ感染症の影響で、無観客での開催となってしまったが、今後あらゆる場面で活かされるであろう。ただ、本当はこういった大きなイベントがあるから変わるのではなく、普段から使う様々な人たちのニーズによって変わっていかなくてはならないのではないかな。そのためには一人一人が行動をおこさなければならないだろう。一刻も早くコロナ感染症が収まり、以前のように外に出たいときに出ることができ、したいことができる世の中になるよう願うばかりである。

(S・K)

昭和四十六年八月七日第三種郵便物認可（毎月六回一・六の日発行）
二〇二一年八月十一日発行 SSKA頸損 通巻第一〇五八四号

編集人

東京都練馬区石神井町
七一一二二〇五
全国頸髓損傷者連絡会

発行人

東京都世田谷区祖師谷三一一一十七
ヴェルドウーラ祖師谷一〇二号室
障害者団体定期刊行物協会

全国頸髓損傷者連絡会

〒669-1546

兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1

フローラ88 305B 特定非営利活動法人ぼしぶる内

TEL : 079-555-6022 Email : jaqoffice7@gmail.com

頒価 250 円

無断転載・複製を禁じます